

P230:《今日の歌舞伎界に、その役者や観客(いずれも△枠)に於ける、芝居(右圖)と現実(左圖)との混同》…

* P230「芝居(右圖)、すなはち『エンタテインメント＝もてなし』[とは『身代り物』なる物語・フィクション]と現實の社會[左圖:『忠(D1)とは藩の財政、經營(F)における遣繰りの才能(E)に發揮される』]とを混同しては困る。(中略)歌舞伎は江戸期(C)町人文化(D1)の所産(△枠)である(即ち、江戸期C⇒町人文化D1⇒所産:歌舞伎△枠)。そこに描かれた武士の生活感情や道德觀(D1)は武士自身のそれ(天C⇒武士道:D1の至大化⇒武士)ではなく、町人(△枠)の目に映つた(D1の至小化)武士のそれ(即ち、天C⇒武士道:D1の至大化⇒武士)である。(中略)平和な繁榮社會(町人文化D1、即ち、江戸期C⇒町人文化D1⇒所産:歌舞伎及び町人△枠)では、それ故に扇情的な『悲劇』[即ち『身代り物』と言ふ主題(C')]が求められる(その程度の事は當時理解されてゐた)。* P230下(今日)「何より黙過し得ぬ事は芝居(右圖:B非現實)、あるいは一般にフィクション(右圖:B假説)と現實(左圖:A)との混同(即ち、對象Fに對する、so called缺如=Eの至小化)が文化の荒廢(D1の至小化)を齎し、文化の荒廢からその兩者(B假説とA現實)の混同(即ち、『身代り物:F』に對する、so called缺如=Eの至小化)が生じてゐるといふ現状である」、[原因は「GHQ(C'場)⇒被弾:『非人間的』『非民主主義的』命令(D1の至小化:特定演目禁止)⇒「學校教育(△枠)、社會教育(△枠)なる「日本人の封建的道德觀抹殺」]。

* P231「今、私はフィクション(右圖B:物語・假説)と現實(左圖:A)との混同と言つたが、それは現實(A・場C')もまたフィクション(假説)であるといふ認識が缺けてゐる事から生じる。文化(D1)もまたフィクション(假説)であるが[とはつまり、「歴史C⇒文化D1⇒人間(△枠)⇒保守演戲D2」構圖もフィクション(假説)なのだと言ふ事。そのフィクション圖そのものが「完成せる統一體としての人格」論圖なのだと言ふ事]、今日、日本の文化(D1)の實状(D1の至小化)はそのフィクションとしての凝集力(D1の至大化)、結晶度(D1の至大化)が弱まり(D1の至小化)、その間隙(荒廢:D1の至小化)を縫つて子供だましの生の現實(フィクションBと現實Aとの混同)がフィクション(假説)面をして罷り通つてゐるに過ぎない」。

